

平成 25 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

1. 明るく健康で、自らを高め、他人を尊重する、人間性豊かな人格の完成をめざす。
2. 工業教育を通じて、規範意識を身につけさせ、勤労と責任を重んじ、幅広い技術をそなえた社会人を育成する。
3. 北摂唯一の府立の工業高校として、「ものづくり」の技術と技能、知識によって将来の地域社会を担うことができる人材を育成する。

2 中期的目標

- 1 「確かな学力」の育成
  - (1) 新学習指導要領を踏まえ、基礎的・基本的な学力の定着をめざした授業改善に取り組む。
    - ア 少人数授業、授業評価、ICTの活用、研究授業等を通じて、より「わかりやすい授業」をめざして組織的に授業改善に取り組み、中退率改善を図る。
 平成 25 年度入学生から「学び直し」のための学校設定科目「工業入門」を設置し、基礎的・基本的な学力の定着をめざす。  
 生徒向け学校教育自己診断における「授業は分かりやすく楽しい」の肯定的な評価が 3 年後に 10% 以上増加するように取り組む(平成 24 年度 42%)。3 年後には、中退率 5% 未満をめざす。
- 2 安全安心で魅力ある学校づくり
  - (1) 生徒の規範意識を醸成し、規律ある学校生活を送らせるとともに、個々の生徒への支援体制を充実させる。
    - ア 挨拶、身だしなみ等、社会人として求められる礼儀を身につけさせるため、基本的生活習慣の確立と規範意識の醸成に努める。
    - イ 教育相談体制を充実させるとともに、人権教育・支援教育を推進する組織の活性化を図る。
  - (2) 生徒の健康管理・安全衛生の意識を高めるとともに、事故のない安全な学校づくりに取り組む。
    - ア 生徒保健委員会を活用し、校内美化の取り組みを推進する。
  - (3) 生徒会活動、部活動を通じて生徒の自己有用感を醸成するとともに、集団や学校への帰属意識を高める。
    - ア 行事、生徒会活動、部活動の活性化を図り、生徒自らが課題意識をもって学校生活を送れるよう支援する。
 学校管理下での事故、特に「実習中の事故ゼロ」を継続する。  
 部活動の加入率を 3 年後には 60% に高める(平成 24 年度 42.3%)。  
 3 年後には、生徒向け学校教育自己診断における「生徒会活動に関心を持って参加し協力している」の肯定的な評価が 50% を超えるように取り組む(平成 24 年度 27%)。
- 3 自立・自己実現の支援(～工科高校の理念である「専門分野の深化」と「高等教育機関への接続」の推進～)
  - (1) キャリア教育・職業体験教育の充実に努める。
    - ア 「実践的キャリア教育・職業教育」支援事業推進校として、「インターンシップ」等の体験的学習を重要な教育活動として位置づけ取り組む。
  - (2) 資格取得指導等を通じて、生徒に達成感、成就感を醸成し、進路実現への意欲を高める。
    - ア 資格取得や就職試験に向けた全学的な協力体制を推進する。
  - (3) 工学系大学等の高等教育機関への進学を希望する生徒等の支援を強化し、ものづくりマインドを持った将来の高度技術者の育成をめざす。
    - ア 大学等高等教育機関に接続する教育課程の改善を図る。
  - (4) 「校長マネジメント推進事業中期計画推進費」における推進校としての取り組みを通じて、幅広い知識と技術を備えたものづくり人材の育成を図る。
    - ア 3 年後に小型人工衛星(CUBE-SAT)の打ち上げに参画することを目標に、関係諸機関との連携を図りながら、生徒に技術・技能を学ばせる。
 インターンシップの参加者数の目標を 50 人とする(平成 24 年度 23 人)。  
 進学希望者を対象にした新しい教育課程(進学専科)を策定し、平成 26 年度入学生から実施するとともに、進学ルートの開拓を行う。
- 4 地域連携・地域貢献の取り組みの推進
  - (1) 生徒支援のための中高連携を推進し、中高連絡会と学校訪問の充実に努める。
    - ア 学校説明会等の時期、内容等を全面的に見直すとともに、新たに中学校教員向けの施設見学会等を実施し、定着させることにより、中学生、保護者、教員の工科高校への理解を促し、志願者増加につなげる。
  - (2) 「ものづくり」による地域貢献活動を、発展的拡大して実施することにより、生徒に自尊感情・自己有用感を醸成する。
    - ア 課題研究の取り組みを 3 つの系の連携も図りながら、さらに充実させ、地域貢献活動の発展的拡大につなげる。
 中学校訪問数 100 校、就職内定率 100% を継続する。  
 生徒向け学校教育自己診断における「授業や部活を通して、地域の人とかかわる機会が多い」の項目の肯定的な評価が 3 年後に 10% 以上増加するよう取り組みを進める。(平成 24 年度は 32%)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 26 年 3 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>生徒のアンケートから、工業高校の特色に理解を示していることがわかる。一方で課外活動について指導が行き届いていないのがわかる。保護者のアンケートでは 9 割近くの保護者がこの学校に入学させてよかったと答えており、学校は保護者の最大のニーズには応えられているものと考えられる。</p> <p>教員のアンケートからは、授業を生徒のレベルに合わせてようと努力しているのがわかるが、生徒、保護者からは理解が十分されているとは言えない。</p> <p>教員は目標を設定して授業を行っているが、生徒が授業内容に理解できないことや、保護者が授業内容について不満を持っていると分析できる。</p> <p>平成 24 年度との比較では、生徒・保護者では授業内容で、教員では学校行事でそれぞれ満足度が減少している。一方で、保護者の進路指導についての満足度が増加している。</p>	<p>第 1 回(6/25) 生活指導について ・生徒指導主事の報告は、遅刻者数の大幅削減をはじめとして、生徒の規範意識向上のため学校全体で努力されていることがよくわかった。今後とも、継続した粘り強い指導を期待する。 工学系大学進学専科について ・平成 26 年度実施に向け、新しい教育課程を策定することになり、進学のニーズに応えられるようにしてもらいたい。</p> <p>第 2 回(10/30) 生活指導について ・遅刻者数が増加の傾向にあり、懲戒件数が昨年に比べ増加している。今後も遅刻指導、懲戒指導を通じて、さらに粘り強く指導し、中退率減少につながることを期待する。 授業公開について ・自主的な公開を積極的に行い授業力向上につなげてもらいたい。 進路指導について ・学校紹介就職状況で、1 次試験合格率が目標の 60% を超えた。今後は 100% 内定をめざして取り組んでいただきたい。</p> <p>第 3 回(3/5) 第 2 種電気工事について ・合格者数が減ったのは、生徒が講習に残らない、教員体制の変化をあげているが、総括を踏まえ、指導体制を改善し、合格率の回復をめざして欲しい。 課外活動について ・クラブ活動の活性化の試みの一つとしての校外清掃、地元自治会と合同で行ってみたい。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 「確かな学力」の育成	<p>(1)基礎的・基本的な学力の定着をめざした授業改善の取り組み</p> <p>ア 少人数授業・研究授業等の取り組み</p> <p>イ 中退率改善をめざす取り組み</p> <p>ウ 「学び直し」を活用した基礎・基本的な学力の定着をめざす取り組み</p> <p>エ 授業評価の取り組み</p>	<p>ア 加配等を活用し、1年生の数学、英語で1クラス2展開授業を実施するほか、専門の実習教科だけでなくできる限り多くの教科でTTを実施する。数学については、習熟度別学習を導入する。</p> <p>イ 生徒のニーズや実態を把握するために、新入生を対象にしたアンケートに加えて、退・転学者向けのアンケートを新たに作成し、実施することにより多角的な分析を行い、中退率の改善に活用する。</p> <p>ウ 生徒にアンケートを適宜実施し、生徒のニーズ・取り組み状況等を把握し、教材、授業方法等に修正を加えながら取り組む。</p> <p>エ 授業公開を従来の11月に加え、6月にも実施する。また、授業アンケート(前期末と後期末)を活用して、若手教員とベテラン教員相互の授業力向上を図る。</p>	<p>ア 生徒アンケートによる満足度 80%(平成 24 年度 75%)</p> <p>イ 中退率を 2%改善(平成 24 年度 7.5%)</p> <p>ウ 数学基礎診断テストの 2 回目の成績 5 ポイント上昇(平成 24 年度 2.8 ポイント)</p> <p>エ 授業公開数延べ 50 以上(平成 24 年度 11)</p>	<p>ア 数学、英語の少人数講座、理科、工業入門の T.T. の授業でそれぞれ満足度約 70%になった。( )</p> <p>イ 2.4%増加し、9.9%となり、改善できなかった。( )</p> <p>ウ 5.1 ポイント上昇( )。</p> <p>エ 自主的な授業公開数延べ 20。( )</p>
2 安全安心で魅力ある学校づくり	<p>(1)規範意識を身につけさせ、個々の生徒への支援体制を充実させる取り組み</p> <p>ア 遅刻数削減の取り組み</p> <p>イ 教育相談体制の充実</p> <p>(2)生徒の健康管理・安全衛生の意識を高める取り組み</p> <p>ア 生徒保健委員会の活用</p> <p>(3)生徒会活動、部活動を通じた生徒の自己有用感、帰属意識の醸成</p> <p>ア 行事、生徒会活動、部活動の活性化</p>	<p>(1)</p> <p>ア ・遅刻ゼロの日、週間等、生徒の意識を喚起する取り組みを推進する。</p> <p>・入室許可書制度の定着、さらなる強化を図る。</p> <p>イ スクールカウンセラー、支援教育コーディネータ等の活用を通じて、個に応じた支援を充実させる。</p> <p>(2)</p> <p>ア 新たに行事後、考査前に大清掃を取り入れ、校内美化を徹底する。</p> <p>(3)</p> <p>ア ・生徒会主催の校外清掃活動を定着させる。</p> <p>・生徒会とPTAの連携によって花づくりを企画し、美しい学校づくりをめざす。</p> <p>・部活動を活性化し、生徒の加入率の向上に努めるとともに、施設設備の充実に取り組む。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 遅刻数前年度比 20%削減(平成 24 年度は 30%)</p> <p>イ 学校教育自己診断の教育相談関連の肯定的回答の 5%増加(平成 24 年度 41%)</p> <p>(2)</p> <p>ア 保健安全指導部による清掃点検における(良好)の 20%増。</p> <p>(3)</p> <p>ア ・年 3 回の実施(平成 24 年度 1 回)</p> <p>・企画立案及び 1 回以上の実施。</p> <p>・加入率 45%(平成 24 年度 42.3%)</p>	<p>(1)</p> <p>ア 遅刻数前年度比 13.3%削減( )</p> <p>イ 生徒へのアンケートで 2 つの設問で肯定的回答 40%と 29%( )</p> <p>(2)</p> <p>ア 清掃点検における(良好)の割合は 90%前後を保っている。( )</p> <p>(3)</p> <p>ア ・年 2 回の実施。1 回目(前期末)は、クラブ員 199 名、保健委員 8 名、教員 33 名が参加。2 回目(後期末)は雨天のため中止したため、春休み中に有志で実施(生徒 52 名参加)。( )</p> <p>・花づくりはできたが、生徒会と PTA の連携はできなかった。( )</p> <p>・正面玄関に新たに花壇を設置した。( )</p> <p>・加入率 45.4%( )</p>
3 自立・自己実現の支援	<p>(1)キャリア教育・職業体験教育の充実</p> <p>ア インターンシップ等への取り組み</p> <p>(2)資格取得を通じた生徒の達成感・成就感の醸成、進路実現意欲の向上</p> <p>ア 資格取得や就職試験に向けた全学的な協力体制の推進</p> <p>(3)高等教育機関への進学希望生徒の支援</p> <p>ア 大学等に接続する教育課程の改善の取り組み</p> <p>(4)「校長マネジメント推進事業中期計画推進費」における推進校としての取り組み</p> <p>ア 小型人工衛星製作への取り組み</p>	<p>(1)</p> <p>ア ・地域産業との連携を深め、受け入れ先企業の安定した確保に努める。</p> <p>・インターンシップを体験した生徒の成果発表会を企画し、参加生徒の増加につなげる。</p> <p>(2)</p> <p>ア ・授業はもとより早朝、放課後の時間帯を活用し、生徒の資格取得を支援する。</p> <p>・就職試験のための個々に応じた面接指導の取り組みを充実させる。</p> <p>(3)</p> <p>ア 進学希望者を対象にした新しい教育課程(進学専科)を平成 26 年度実施に向け、プロジェクトチームを立ち上げ策定する。</p> <p>(4)</p> <p>ア 小型人工衛星の打ち上げに参画するための基礎技術を学ばせるため、JAXA、和歌山大学、全国工業高等学校長協会と連携しながら、クラブ活動、課題研究等を活用して、缶サット(模擬人工衛星)ハイブリッドロケット等を製作するとともに、アマチュア無線局開設に向けた取り組みを行う。</p>	<p>(1)</p> <p>ア ・参加生徒 50 名(平成 24 年度 23 名)</p> <p>(2)</p> <p>ア ・電気系 2 年生の第二種電気工事士の合格率 70%以上(平成 24 年度 69.1%)。その他の資格取得、特に危険物取扱者乙種、旋盤技能検定 3 級の合格者数の増加。</p> <p>・第 1 次就職試験合格率 60%以上。</p> <p>(3)</p> <p>ア 生徒・保護者のニーズに応じた教育課程の策定。</p> <p>(4)</p> <p>ア 缶サット甲子園全国大会への出場(平成 24 年度地方大会 6 位)</p>	<p>(1)</p> <p>ア ・ 13 企業・団体に 17 名が参加した。( )</p> <p>(2)</p> <p>ア ・ 2 年生の第二種電気工事士の合格率 37%。( )</p> <p>危険物取扱者乙種合格者数は 33。昨年比 3 減( )</p> <p>旋盤技能検定 3 級の合格者数 1。( )</p> <p>・第 1 次就職試験合格率 60.1%。最終の内定率は 100%(2/10 達成)。( )</p> <p>(3)</p> <p>ア 数学、理科、英語の単位数を増加させ、学校設定科目「大学連携」を開講するなど、理工学系大学進学をめざすための特色ある教育課程を策定できた。( )</p> <p>(4)ア 缶サットを新しく製作し通信できる機能を加えた。ハイブリッドロケットについては、製作を完了し、3 月に打上げに臨んだが、悪天候等の影響もあり、不調に終わった。次年度に再挑戦する予定である。さらに、小型人工衛星の筐体製作の取り組みもはじめている。サイエンスフェスタや産業教育フェアなどのイベントに参加して PR 活動も行った。また、無線設備の設置も完了し、ISS(国際宇宙ステーション)とも通信できた。( )</p>
4 地域連携・地域貢献の取り組みの推進	<p>(1)中高連携の推進</p> <p>ア 中学校の生徒、保護者、教員の工科高校への理解を促す取り組み</p> <p>(2)「ものづくり」による地域貢献活動の取り組み</p> <p>ア 課題研究充実への取り組み</p>	<p>(1)</p> <p>ア ・中学校教員向けの施設見学会等を企画、実施する。</p> <p>・3 つの系の連携を深め、地域の小中学校に働きかけ、出前授業を積極的に行う。</p> <p>・中学生およびその保護者のニーズに応えるため学校説明会等の内容を全面改定する。</p> <p>(2)</p> <p>ア ・アルミ製朝礼台等の製作・寄贈、茨木市イルミネーション事業への参画等の「従来のものづくり」による地域貢献活動を一層推進する。</p> <p>・関西サイクルスポーツセンターの「夢の自転車開発研究事業」に応募し、「夢の自転車づくり」を行う。</p> <p>・課題研究発表会を地域等に公開する等の新たな取り組みを検討する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア ・企画、実施し、アンケートによる肯定的回答が 70%以上。</p> <p>・5 校以上の出前授業実施。</p> <p>・アンケートによる満足度が前年度比 10%増加。</p> <p>(2)</p> <p>ア ・新たな作品の製作。</p> <p>・“夢の自転車”の製作、完成。</p> <p>・課題研究発表会の公開。</p>	<p>(1)</p> <p>ア ・ 肯定的回答は 100%( )</p> <p>・出前授業実施 3 校 6 件( )</p> <p>・アンケートの満足度は約 90%前後で昨年度とほぼ同じ水準となった。( )</p> <p>(2)ア ・アルミ製朝礼台を 3 台製作し、地域の小中学校、支援学校に寄贈。また、いばらき光の回廊のイルミネーション機材の製作・設置を行い地域に貢献した。( )</p> <p>・2 台の“夢の自転車”を製作した。( )</p> <p>課題研究発表会を下級生も参加させ、1 月下旬の 5 日間の日程で実施した。( )</p>